

「最後の仕法」は

一人の若者に託された

二宮尊徳と

久保田讓之助



宮内庁三の丸尚蔵館所蔵



令和元年

12月1日(日) ▶ 12月22日(日)

入場料無料

時間 午前9時～午後5時

休館日 12月2日(月)・9日(月)・16日(月)

鹿沼市文化活動交流館 ギャラリー (栃木県鹿沼市睦町 1956-2)

今から150年前、一人の若者の指導によって板荷村に一筋の用水路が作られました。

その若者は日光県の官吏だった久保田讓之助。

讓之助は二宮尊徳・尊行親子が行った農村復興事業“報徳仕法”を託された人物でした。

本企画展では二宮尊徳・尊行、そして久保田讓之助の“最後の仕法”を通して、

幕末・明治の混乱期に地域の再興を目指した人々の足跡を明らかにします。

—最後の仕法が拓いた未来— ひら

江戸時代、米の食べられない「麦飯所」と呼ばれた板荷村を、明治2年(1868)に開削された一筋の用水路が見事な田園風景に変えました。その堀は開削を指導した日光県の官吏久保田讓之助の名前から“久保田堀”と呼ばれています。

讓之助の仕法は、幕末に今市を中心行われた二宮尊徳・尊行親子の“報徳仕法”に連なるものです。尊行の弟子だった讓之助は、今市の報徳仕法が終了した後も現地に残って師の仕法の継続を図っていました。

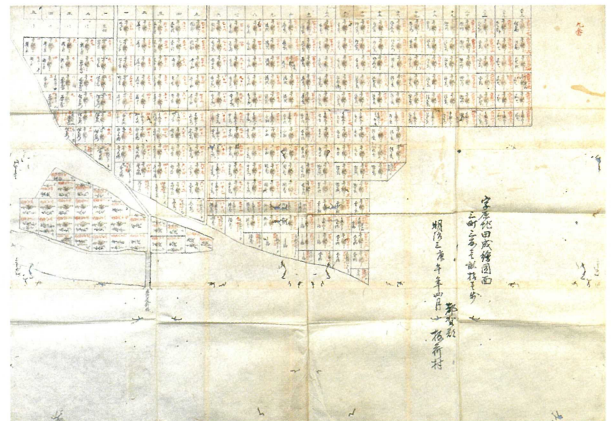
“最後の仕法”は何を遺したのか。二宮尊徳・尊行・久保田讓之助ゆかりの品々、そして地域の史料から解き明かします。



現在の久保田堀と田園風景



仕法で使用した測量器具(今市報徳二宮神社蔵)



字原地田成絵図面(個人蔵)

■ 記念講演会

「尊徳と報徳仕法の実像」 要申込

講師：松尾公就氏

1955年生まれ。報徳博物館学芸員、立正大学・成城大学非常勤講師、昭和館図書情報部長を経て現在、同館顧問。主な著書に『二宮尊徳の仕法と藩政改革(勉誠出版社、2015年)、『近世関東の村落支配と農民』(大河書房、2016年)。

日時：12月8日(日)午後1時30分～3時30分

会場：鹿沼市民情報センター マルチメディアホール

定員：100名(先着順)

申込開始日：11月25日(月)午前9時～

■ 関連講座

「研究最前線！ 朝鮮種人參と二宮金次郎像」 要申込

日時：12月15日(日)午後1時30分～3時30分

会場：鹿沼市民情報センター 学習室B

定員：30名(先着順)

申込開始日：11月25日(月)午前9時～

講師：仲沢 隼氏(地方史研究協議会会員)

福田純一氏(文化課職員)

■ ギャラリートーク(展示解説) 申込不要

日時：12月1日(日)、22日(日)午前10時～(1時間程度)

会場：文化活動交流館ギャラリー

講師：企画展担当職員

鹿沼市教育委員会事務局文化課文化財係

栃木県鹿沼市坂田山2丁目170番地 鹿沼市民文化センター3階 TEL.0289-62-1172

栃木県
文化振興基金助成事業



みんな
で
育み、誇る
とちぎの文化

beyond
2020